

I

序論

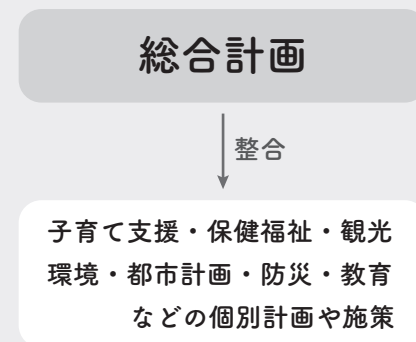
素案

計画策定にあたって

総合計画とは？

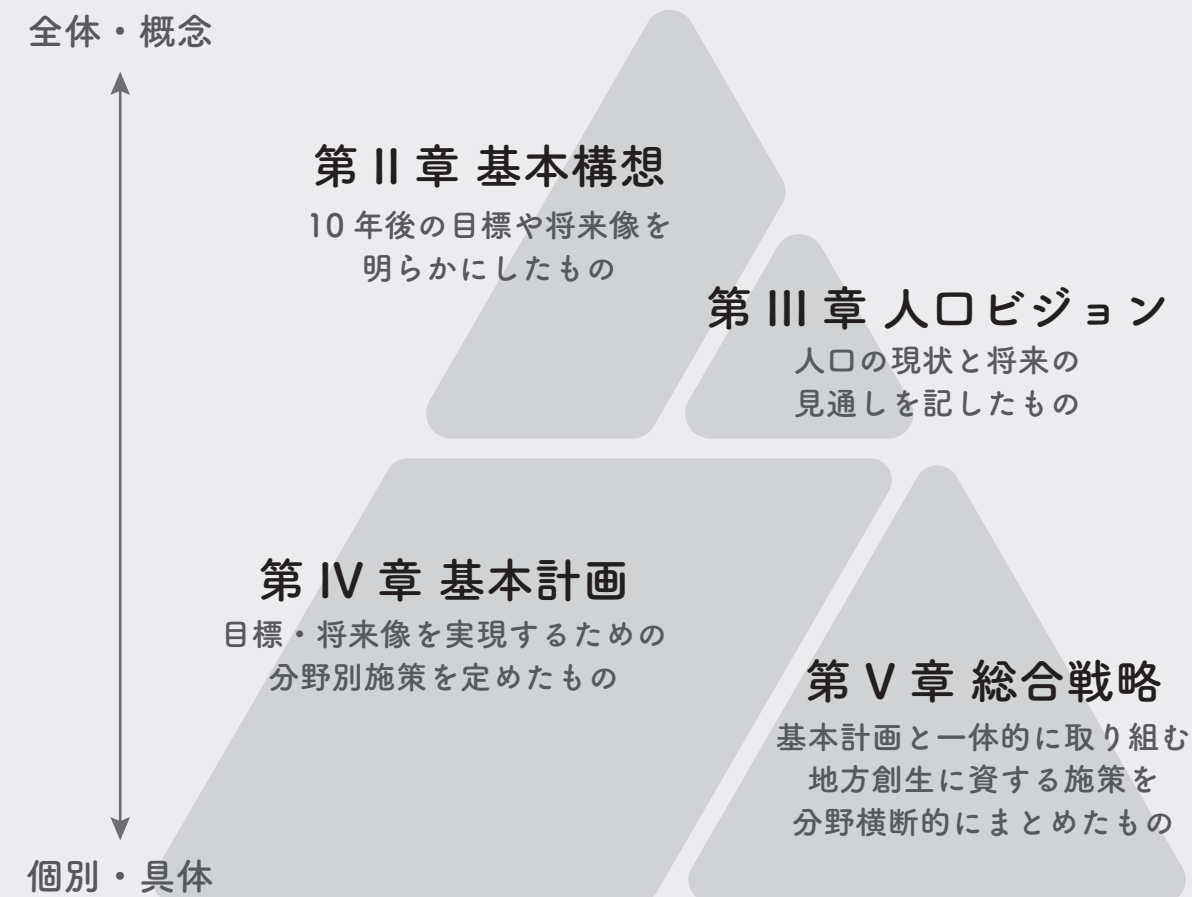
総合計画とは、地方自治体の行政運営において最上位にあたる計画です。

自治体の目指すべき将来像や講じていくべき施策を示すものであり、行政やすべての住民・事業者が一体となってまちづくりを進めるための基本的な指針となります。



計画の構成

第6次津久見市総合計画は、これまで別々に策定されていた人口ビジョンおよび総合戦略と一体的に策定しています。



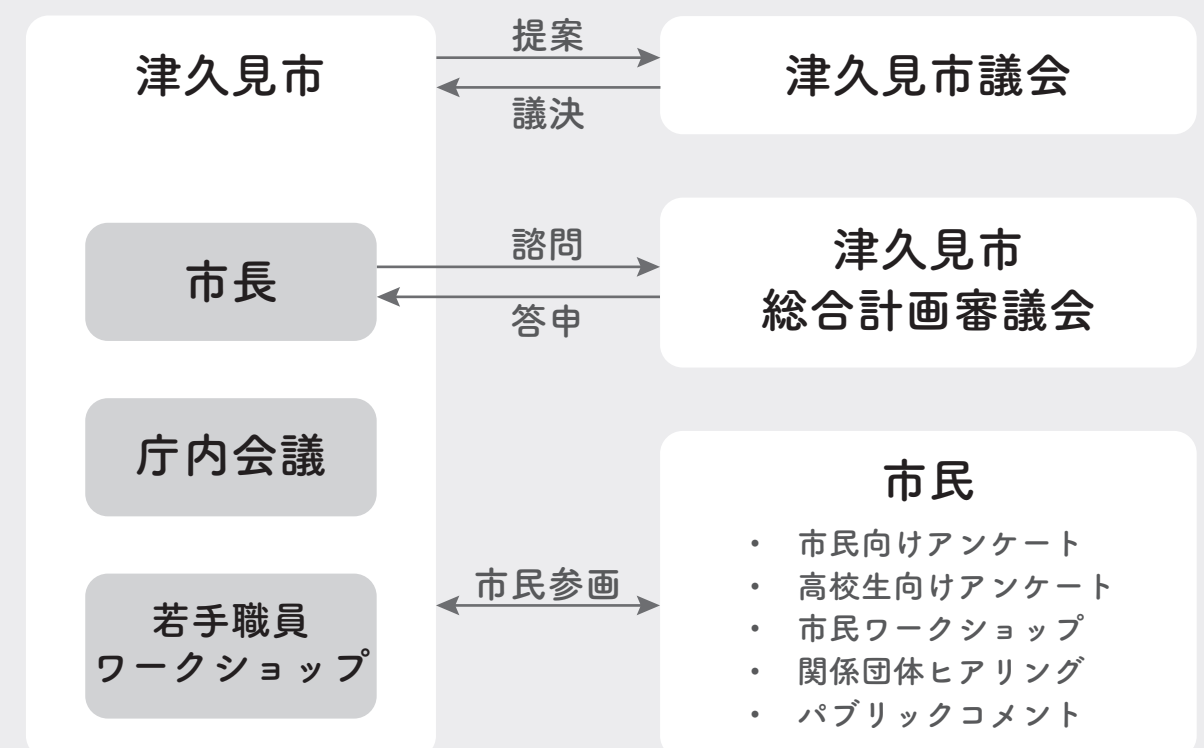
計画の期間

第6次津久見市総合計画は、各章によって計画の期間が異なります。



策定体制

第6次津久見市総合計画の策定体制は以下のとおりです。



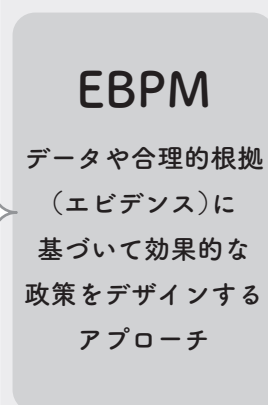
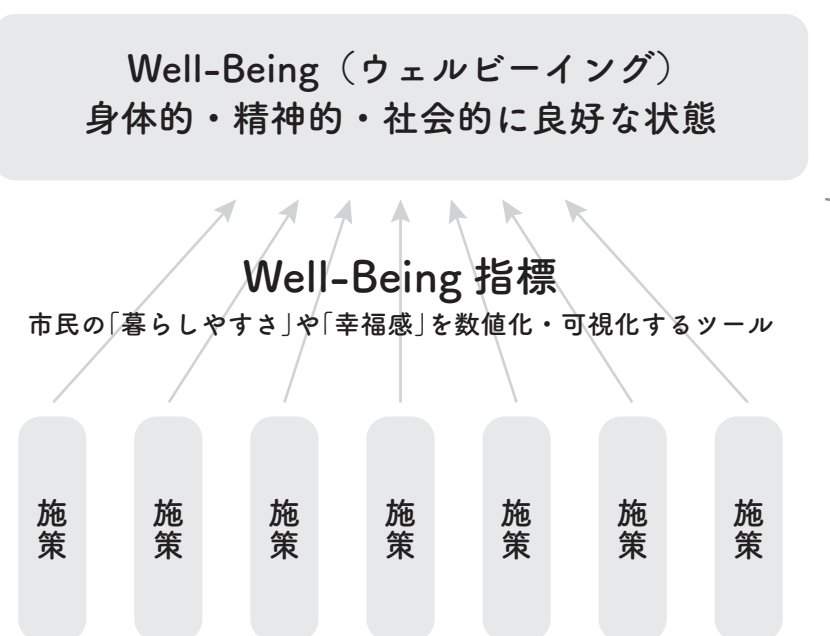
策定の考え方（Well-Being と EBPM）

現在の日本は大きな変化の中にあり、少子高齢化や人口減少が進み、ポストコロナ対応や自然災害の激化といった課題が顕在化しています。また、市民の価値観も多様化し、物質的な豊かさだけでなく、精神的な幸福や安心を求める人が増えています。そこで注目されているのが、「**Well-Being（ウェルビーイング）**」という概念です。「Well-Being」とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態のことで、市民一人ひとりの Well-Being が向上するための地域づくりが求められます。

また、自治体は限られた予算や人材を効果的に使うため、単なる経験やエピソードに頼らず、データや合理的根拠（エビデンス）に基づいて効果的な政策をデザインするアプローチが必要です。これは「**Evidence-Based Policy Making（証拠に基づく政策立案：EBPM）**」と呼ばれる手法であり、内閣府はこの「EBPM」を前提とした計画策定を進めることを推奨しています。

以上を踏まえ、本計画策定においては、Well-Being および EBPM の考え方を取り入れています。

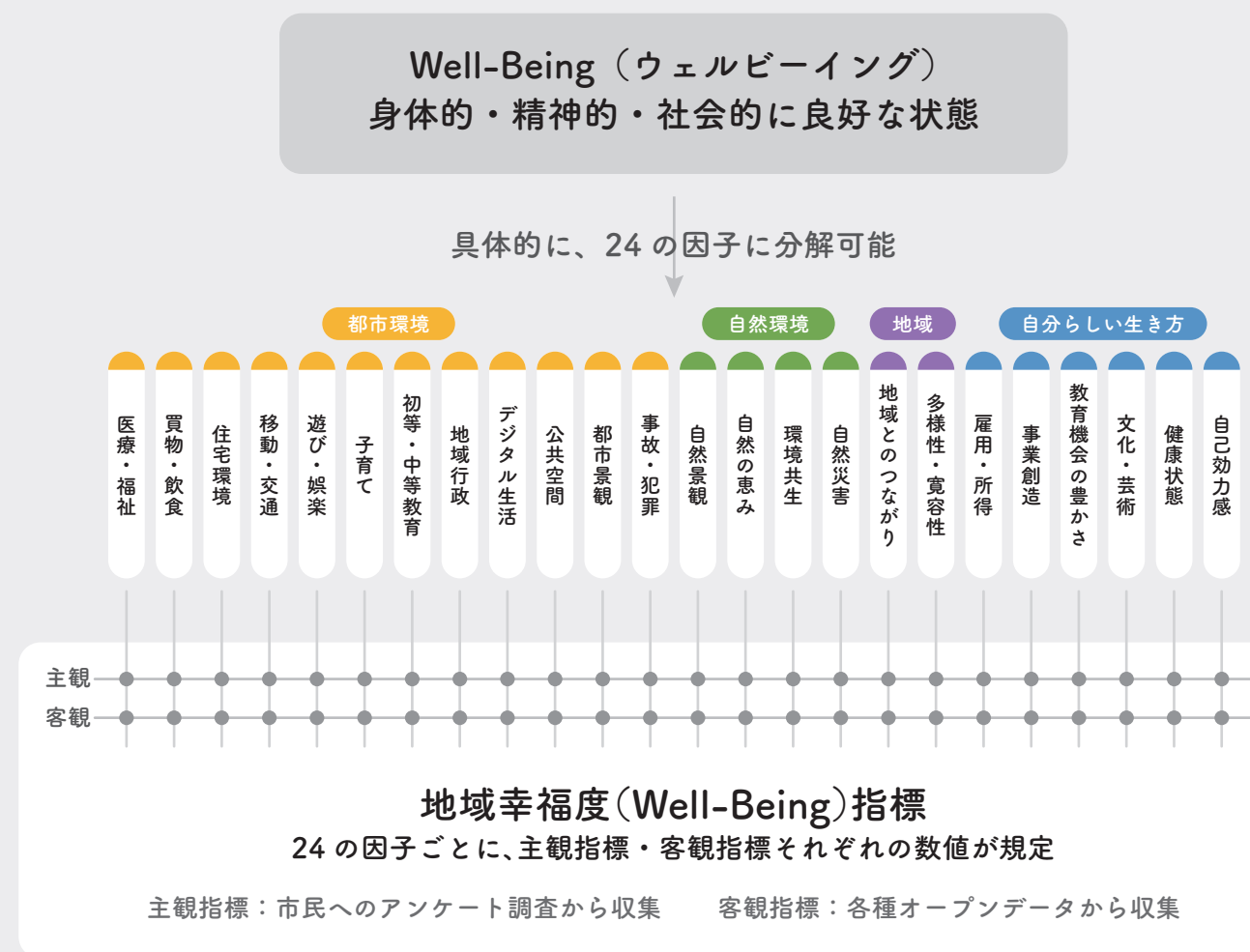
第6次津久見市総合計画



Well-Being 指標

Well-Being の向上を目指しながら、EBPM を実践するために有効なのが、デジタル庁と「スマートシティ・インスティテュート・ジャパン（SCI-Japan）」※が開発し、デジタル庁とともに国策として推進している、「**地域幸福度（Well-Being）指標**」です。「Well-Being 指標」は、市民の「暮らしやすさ」や「幸福感」を数値化・可視化するツールであり、この指標を導入・活用して第6次津久見市総合計画の策定を進めました。

Well-Being の概念を具体的に分解すると、図のように 24 の因子に分けられます。Well-Being 指標は、基本的にこの 24 因子ごとに数値が規定されます。



※スマートシティ・インスティテュート・ジャパン(SCI-Japan)：2019(平成31)年に設立された一般社団法人。地域幸福度(Well-Being)指標や人材育成プログラムの開発・提供などを通じて、住民の Well-Being 向上を目標としたまちづくりを推進するための産官学民連携の中間支援組織。

地方創生 2.0

全国的に人口減少が進む中で、本市においても、若者世代の転出超過や出生数の減少、未婚率の上昇などにより、想定を上回るスピードで人口減少が進んでおり、今後においてもこの傾向は続くことが想定されます。そのような中、国では、これまでの地方創生 10 年の成果と反省を踏まえ、次の 10 年間の地方創生の取組として、2025（令和 7）年 6 月 13 日に「**地方創生 2.0 基本構想**」を閣議決定しました。この地方創生 2.0 では、人口減少を真正面から受け止めた上で、少子化対策や経済循環の促進など、地域や社会が持続・機能するための適応策を講じるという基本姿勢を強調しています。（右図参照）

気候変動や自然災害の脅威

近年は、地球温暖化等の影響により、これまでに経験しなかったような豪雨による自然災害が、日本全国で激甚化・頻発化しており、本市も平成 29 年台風第 18 号による未曾有の水害に見舞われたことなどから、防災対策の重要性がさらに増してきているとともに、地球温暖化防止をはじめ、環境への配慮が重要となっています。

また、南海トラフ地震についても、30 年以内の発生確率が 60 ～ 90% 程度以上とされており、自助・共助・公助の取組の重要性も増しています。

デジタル化の進展

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、非接触や非対面サービスなど、急速にデジタル化が進展しており、その速度は日に日に増しています。企業活動や行政サービス、業務の効率化、教育分野など日常生活においてデジタルは欠かせないものとなっており、あらゆる場面でデジタルを活用することを想定する必要があります。

地方創生 1.0（2014 年以降）

中心施策

- 人口減少に歯止めをかける
- 安定的な雇用創出・子育て支援
- 人を都市から地方へ
- 企業誘致・産業活性化
- デジタルの力の活用

結果

- 自治体間で人口の奪い合いに
- 地方からの人口流出は止まらず
- 連携や支援不足により産業活性化も伸び悩む
- 地方のデジタル化も道半ば

地方創生 2.0（2025 年以降）

人口減少を正面から受け止め

人口減少の中でも、社会・経済が機能する適応策を講じる

若者や女性にも選ばれる地域づくり

無意識の思い込みなどの意識変革や魅力ある職場づくりを重視

異なる要素の連携と「新結合」

施策・人材・技術の従来にない組み合わせによる新たな価値創出

AI・デジタルなどの新技術の徹底活用と社会実装

急速かつ飛躍的に発展するデジタル・新技術を徹底活用

都市・地方の共生関係の強化と人材循環の促進

関係人口の創出・可視化により、都市と地方の共生関係を強化

好事例の普遍化

好事例を知り、学ぶ環境をつくり、地域の特性に応じて普遍化

基本姿勢・視点

政策の 5 本柱

安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生

人や企業の地方分散

新時代のインフラ整備と AI・デジタルなどの新技術の徹底活用

広域リージョン連携

津久見市の概要

津久見市の歴史

鎌倉

- 1250（建長 2）
津久見という文字が記された最も古い史料
「津久見浦鎮守八幡大菩薩にやぶた三反を御供田として寄進される」

戦国

- 大友氏の支配下
キリシタン大名である大友家 21 代義鎮(宗麟)は、
晩年、津久見赤河内に転居

江戸

- 1587（天正 15）
大友宗麟が津久見にて逝去
- 津久見の北半分が臼杵藩、南半分が佐伯藩と市域が分割
- 柑橘栽培や石灰づくりが進展

明治

- 1889（明治 22）
市町村制施行令により、
四保戸村・日代村・津組村・青江村・下浦村の 5 村に
- 1892（明治 25）
四保戸村が分裂して四浦村・保戸島村に

大正

- 1916（大正 5）
日豊本線 臼杵・佐伯間開通
柑橘栽培面積が拡大・近代的なセメント工業が発達
- 1921（大正 10）
津組村が津久見町に
- 保戸島のまぐろ延縄漁業が日本列島全域から南洋へ進出

昭和

- 1928（昭和 3）
青江村が青江町に
- 1933（昭和 8）
津久見町・青江町・下浦村が合併して津久見町に
- 1951（昭和 26）
1 町 3 村(津久見町・日代村・四浦村・保戸島村)が合併し、津久見市が誕生

津久見市の写真

津久見市の写真

津久見市の写真

津久見市の写真

津久見市の写真

津久見市の写真

津久見市の写真

I
序論

II

III

IV

V

VI

津久見市の地勢

大分県は、瀬戸内海や豊後水道に面し、台風の襲来や冬の厳しい季節風から守られ、比較的温暖な気候に恵まれています。

中でも津久見市は、穏やかで美しい津久見湾を半島部のリアス海岸が囲っており、さらに 600 ～ 700m の山地が三方から馬蹄型に囲う地形を有します。

また、山地斜面には柑橘栽培の段々畑や広大な石灰岩地帯の鉱山が広がります。

津久見市の総面積：79.48 km²

(出典：国土地理院「令和 7 年 7 月 1 日時点 全国都道府県市区町村別面積調」)

臼杵市

長目半島

津久見湾

沖無垢島

地無垢島

保戸島

四浦半島

佐伯市

鎮南山

姫岳

基盤ヶ岳

東九州自動車道

津久見 IC

津久見駅

JR 日豊本線

日代駅

至 宮崎市

至 宮崎市

至 大分市



0

5 km

国土地理院 基盤地図情報（基本項目・数値標高モデル）および国土数値情報を編集・加工して作成

I
序
論

II

III

IV

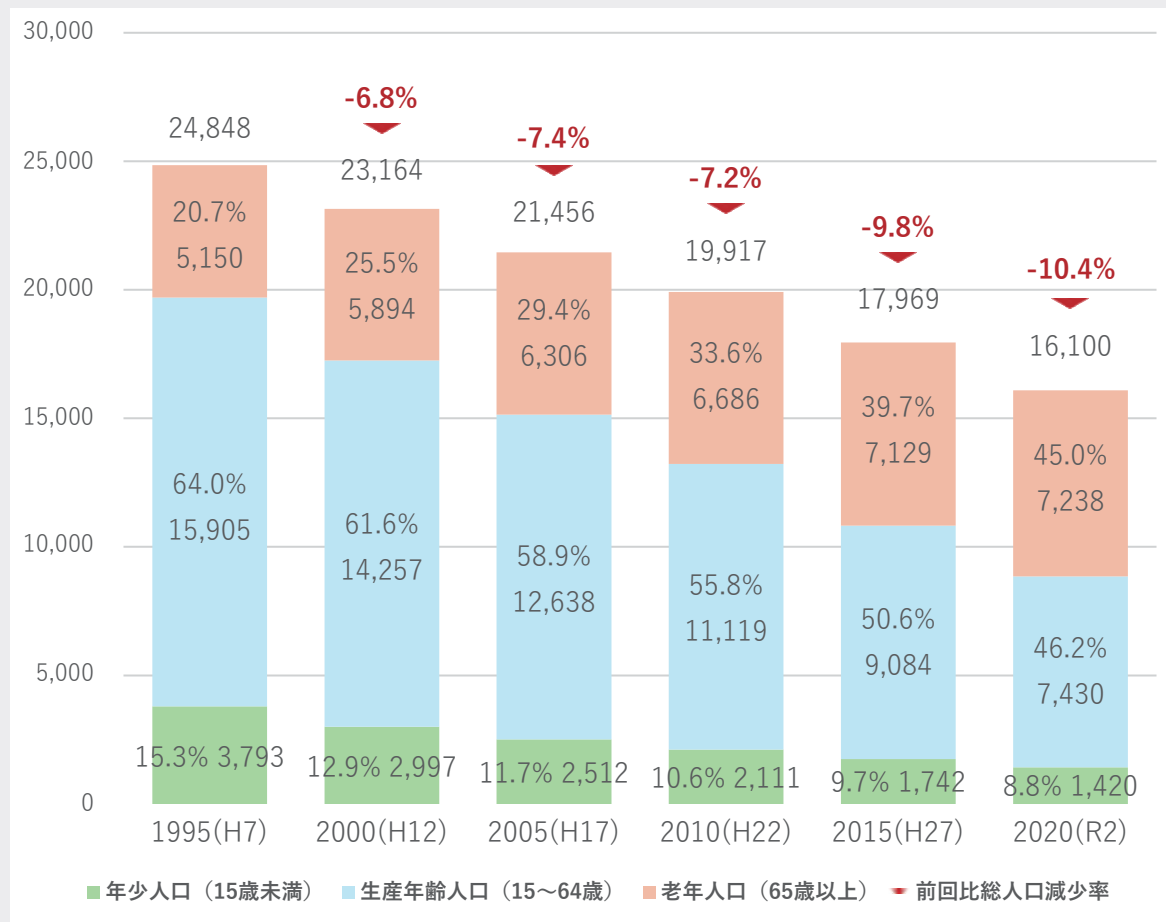
V

VI

人口減少・少子高齢化

国勢調査によると、本市の総人口は減少の一途をたどっており、減少率は年々高まっています。

また、年少人口・生産年齢人口ともに減少の一方、老年人口は増加で推移しており、少子高齢化の傾向が年々顕著になっています。



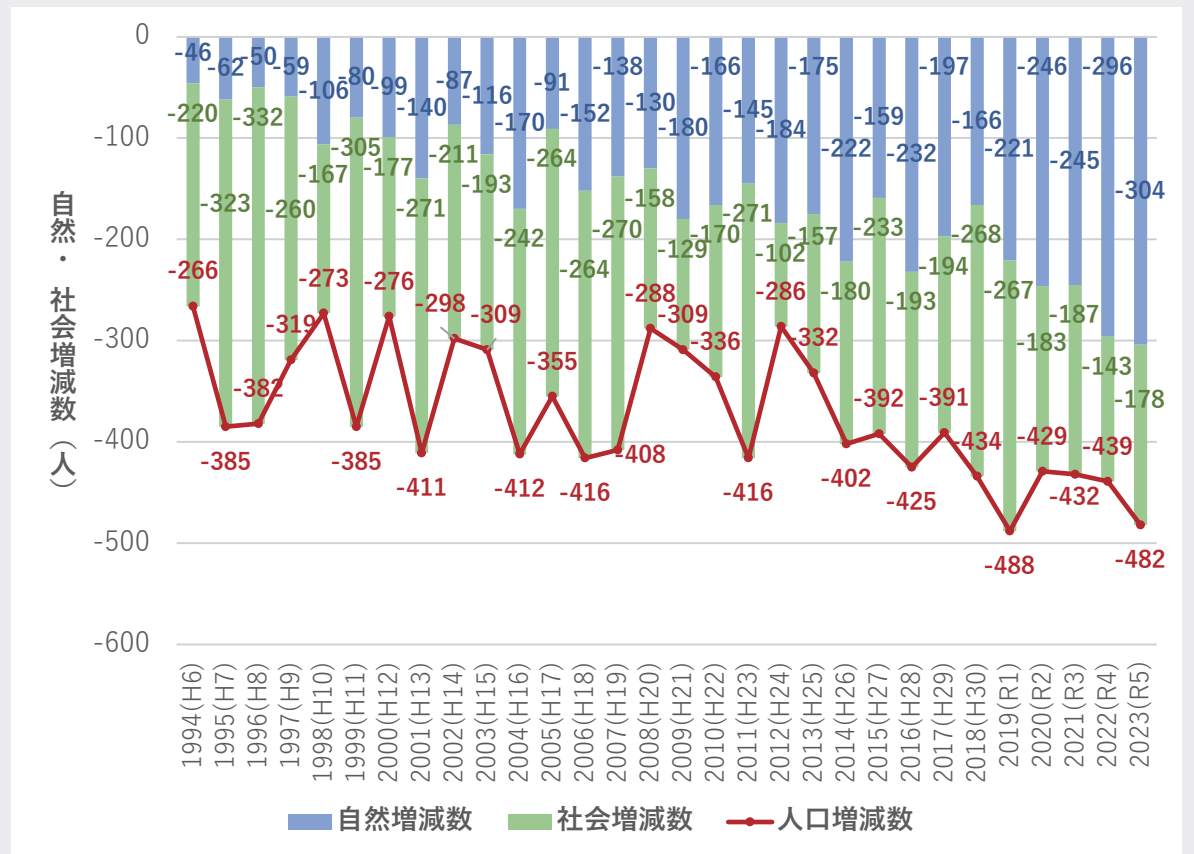
津久見市の総人口の推移
(出典：総務省「国勢調査(H7～R2)」)

自然減・社会減の傾向

過去 30 年間はどの年でも自然減・社会減を示しており、これらが人口減少および少子高齢化の主な要因と考えられます。

※自然減：出生数よりも死亡数の方が多いこと

※社会減：転入者数よりも転出者数の方が多いこと



津久見市における人口の自然・社会増減の推移
(出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(H7～R6)」)

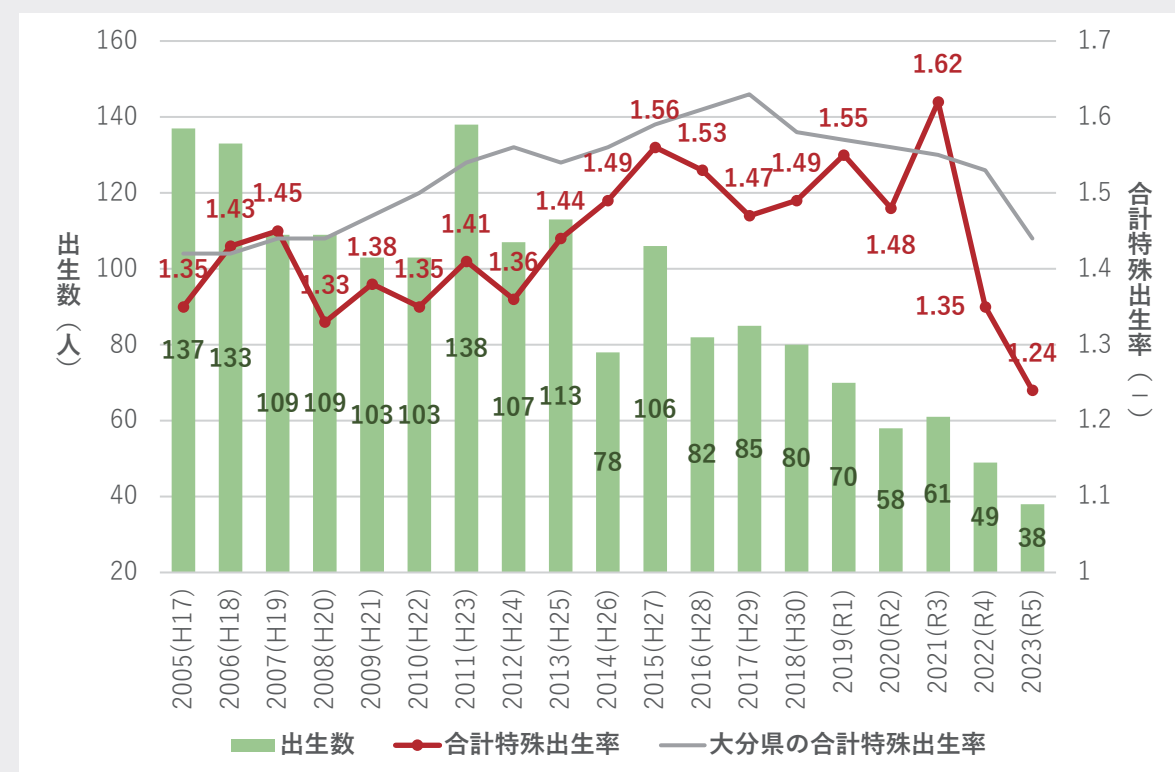
津久見市の現状整理 - 人口 -

自然減の要因

本市の合計特殊出生率は、2021(令和3)年までなだかな上昇を見せており、2021(令和3)年には県平均を上回る1.62を記録しましたが、2022(令和4)年からは一転、値が急降下するとともに、出生数も右肩下がりとなっています。

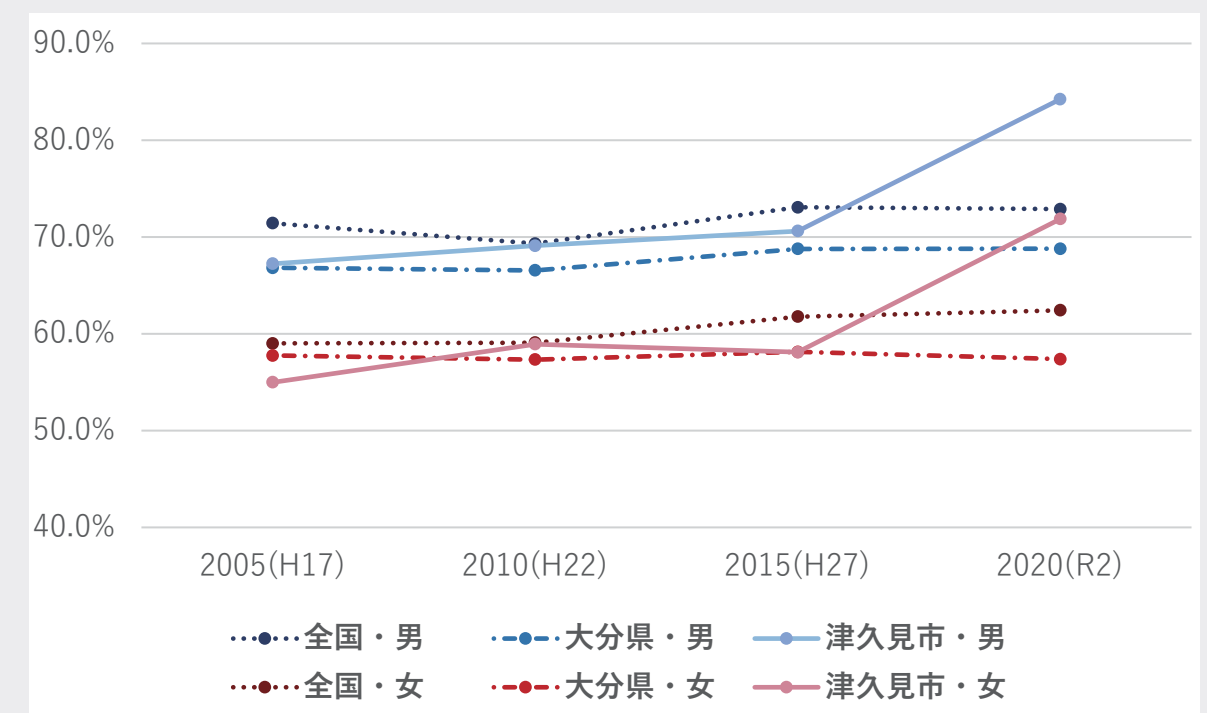
2023(令和5)年に至っては2005(平成17)年以降で最も低い1.24を記録しました。

※合計特殊出生率：15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に子どもを生むとしたときの子どもの数に相当する



津久見市における出生数および合計特殊出生率の推移
(出典：厚生労働省「人口動態統計(確定数)(H17～R5)」／
大分県「合計特殊出生率(5年平均)、市町村・年次別(H17～R5)」)

本市における25～29歳の未婚率の推移を見ると、2015(平成27)年から2020(令和2)年にかけて、男女ともに10%以上の大幅な増加を示しています。近年、20代後半の若い世代の結婚が急激に減っていることがわかり、これがここ数年において出生率が急降下した要因の1つとも考えられます。

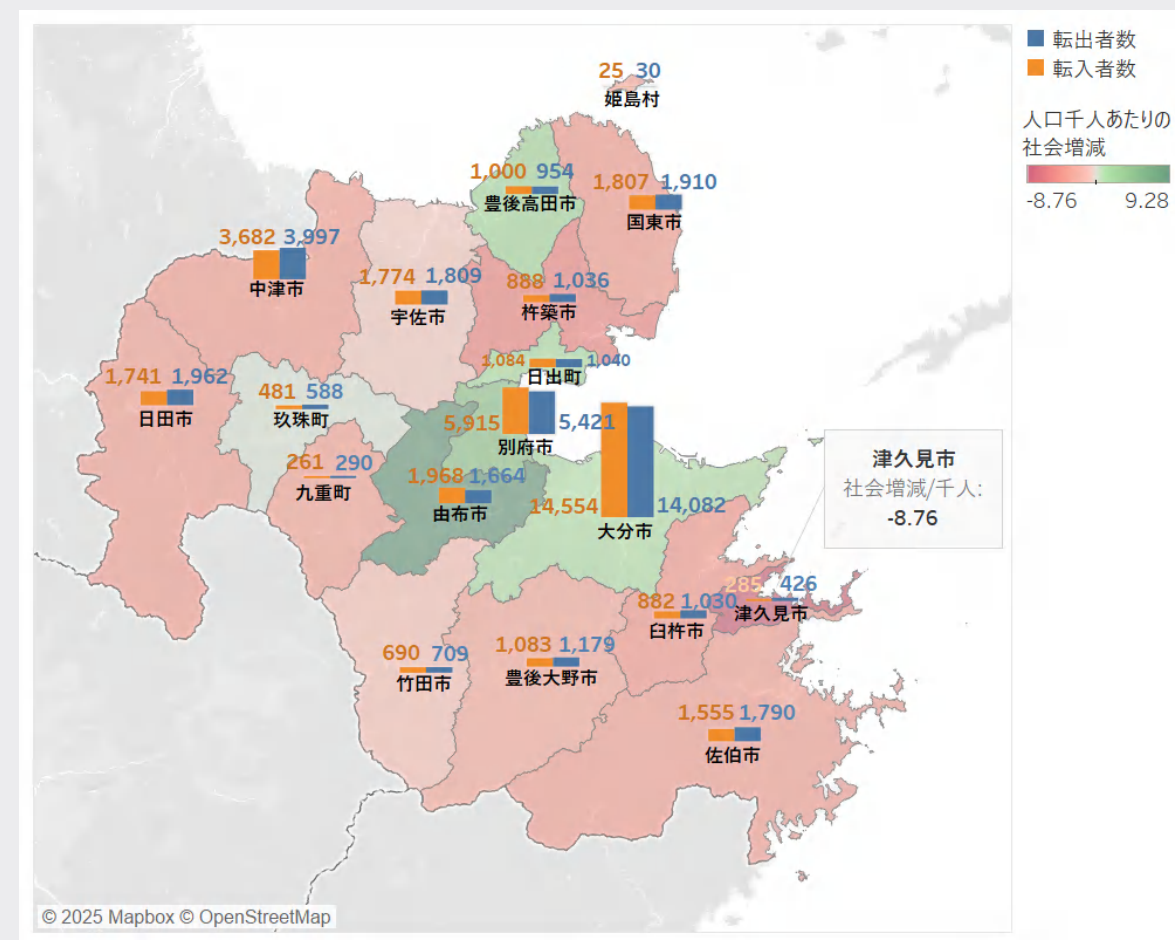


津久見市における25～29歳の未婚率の推移
(出典：出典：総務省「国勢調査(H12～R2)」)

津久見市の現状整理 - 人口 -

社会減の要因

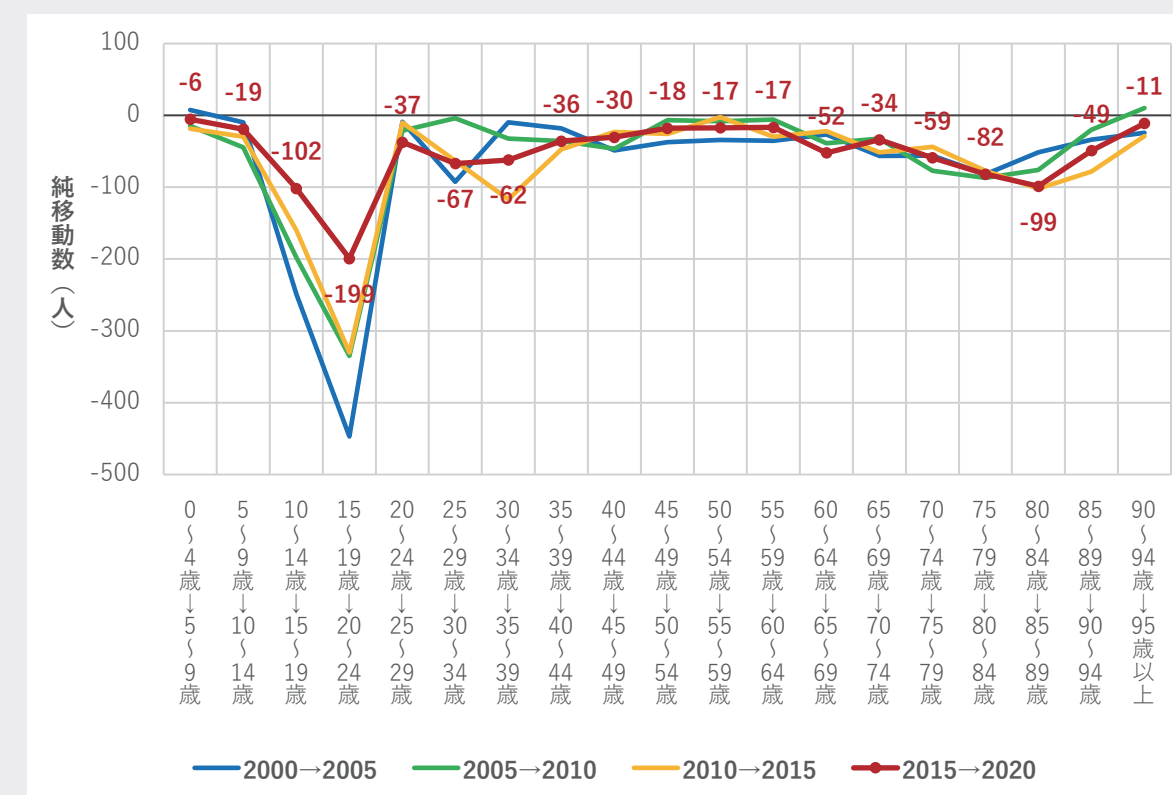
本市における人口千人あたりの社会減は、大分県内で最も大きく、津久見市から他地域への転出超過の傾向が大きいと言えます。



大分県内の市町村における前年からの社会増減
(出典：大分県「大分県の人口推計【年報】(R6)」)

年齢別の純移動数を見ると、就学・就職等による 20 代前後の転出や子どもを連れた 30 代前後の家族の転出が多いことがわかります。

※純移動数 = 転入者数 - 転出者数

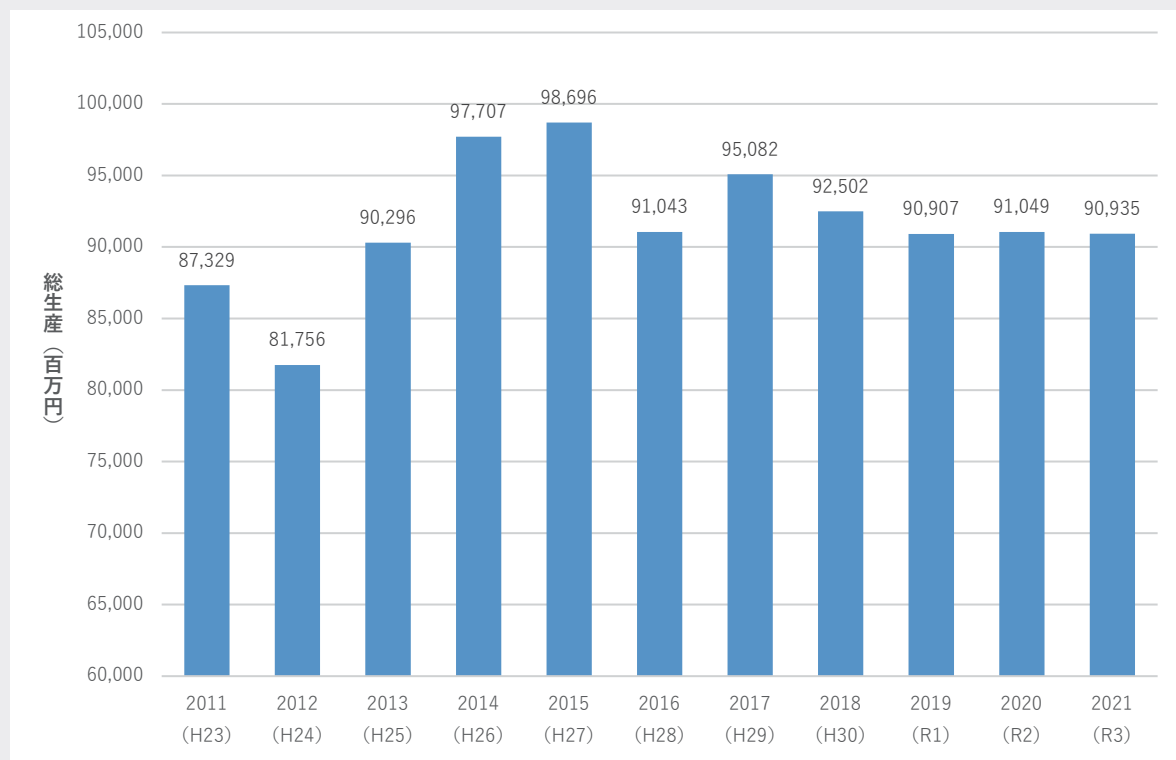


津久見市における純移動数の推移

(出典：総務省「国勢調査(H12～R2)」／厚生労働省「市区町村別生命表(H12～R2)」)

安定的な市内総生産

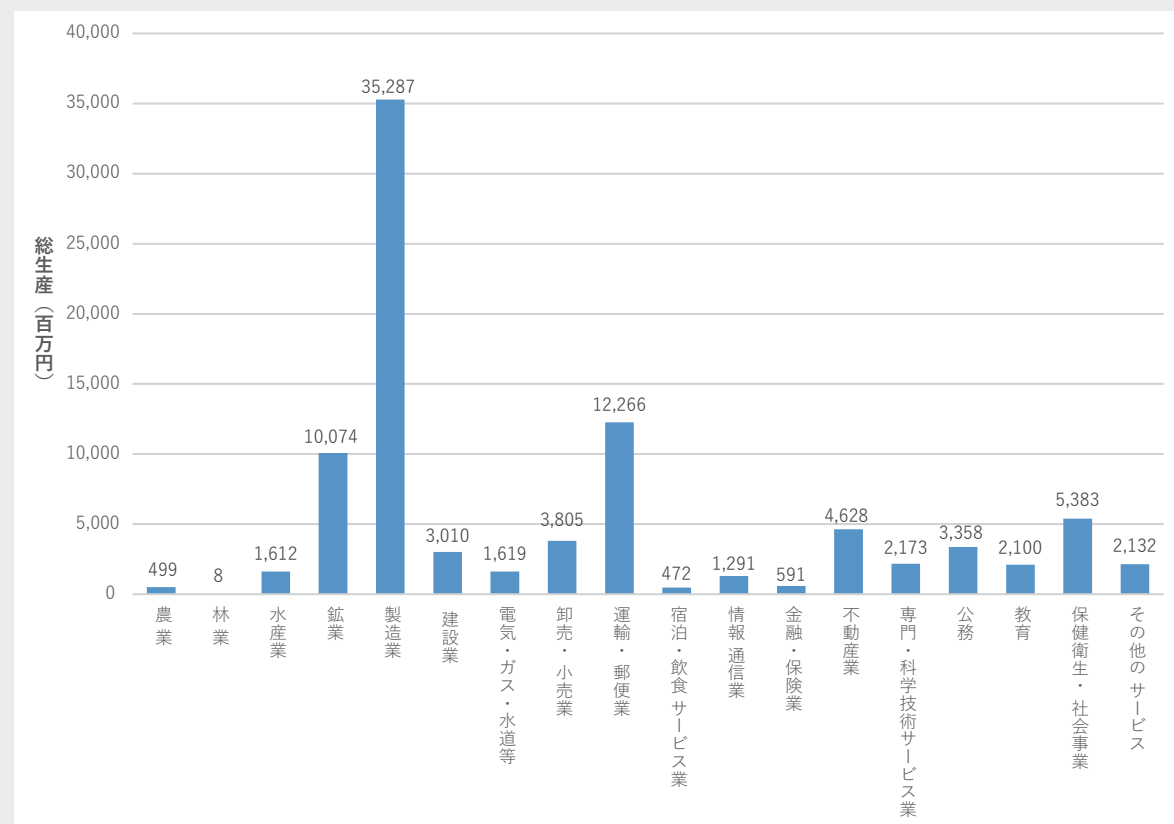
本市における総生産は、2011（平成 23）年から 2012（平成 24）年にかけて減少しましたが、その後回復し、2015（平成 27）年には 98,696 百万円とピークを迎えました。以降はおおむね 90,000 ～ 95,000 百万円程度の間で推移し、2021（令和3）年は 90,935 百万円と安定した水準にあります。



津久見市における総生産の推移
（出典：大分県「大分の市町村民経済計算（R3）」）

市内の主要産業

産業別での総生産を見ると、製造業（35,287 百万円）が圧倒的に高く、地域経済の中心を担っています。次いで、運輸・郵便業、鉱業が主要となっています。製造業および鉱業の総生産の高さについては、本市の主要産業である石灰石・セメント産業の規模の大きさを裏付ける結果となっています。対照的に、農業、林業、水産業などの第 1 次産業は生産額が低いことがわかります。

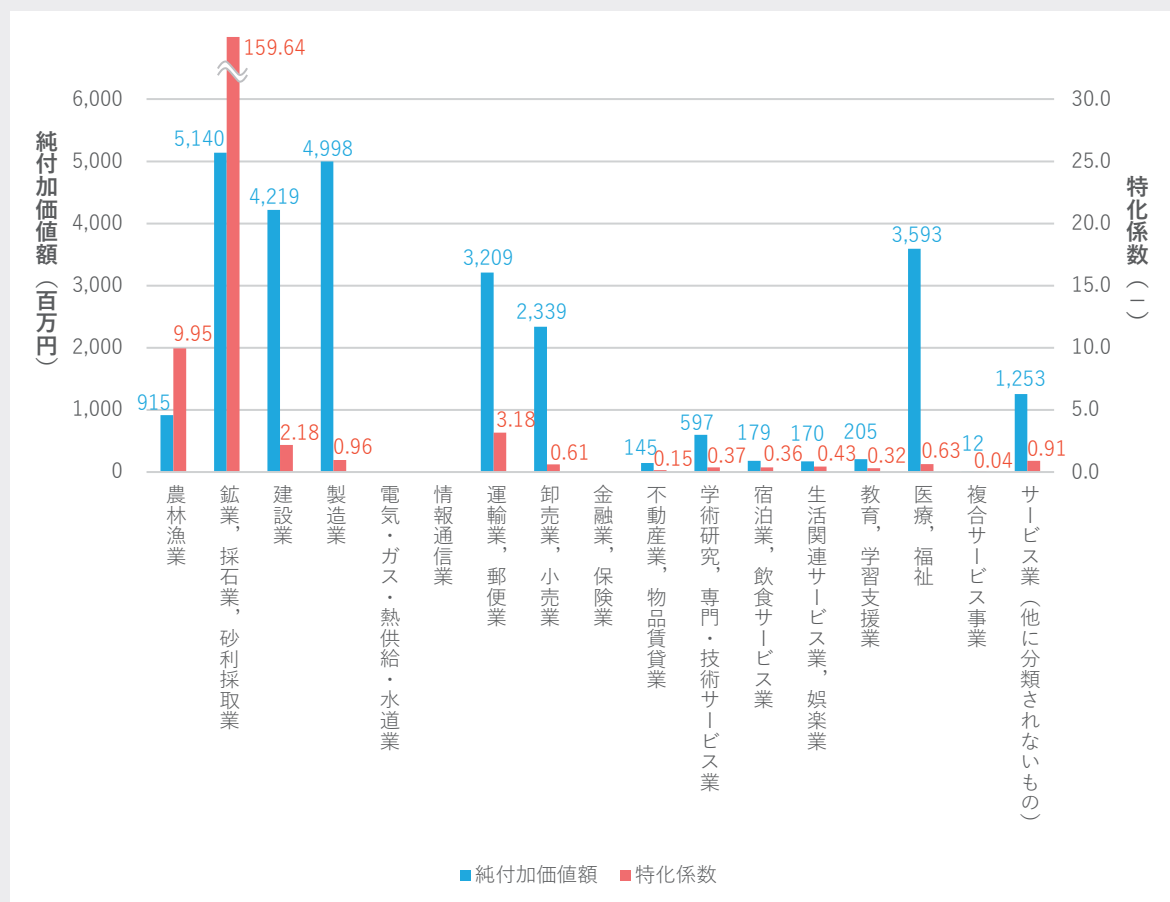


津久見市における産業別総生産
（出典：大分県「大分の市町村民経済計算（R3）」）

セメント関連産業の突出

本市における産業別の付加価値額を見ると、「鉱業・採石業・砂利採取業」や「製造業」、「建設業」などの付加価値額が 40 億円を超えており、本市の主要産業であるセメント関連産業の規模の大きさを裏付ける数字となっています。

産業別付加価値額の特化係数（全国平均と比較したときの付加価値額の相対的な多さの指標）を見ると、「鉱業・採石業・砂利採取業」が 159.64 と突出した値を示しており、また「農林漁業」では 9.95、「運輸業・郵便業」でも 3.18 と高い値を示しています。



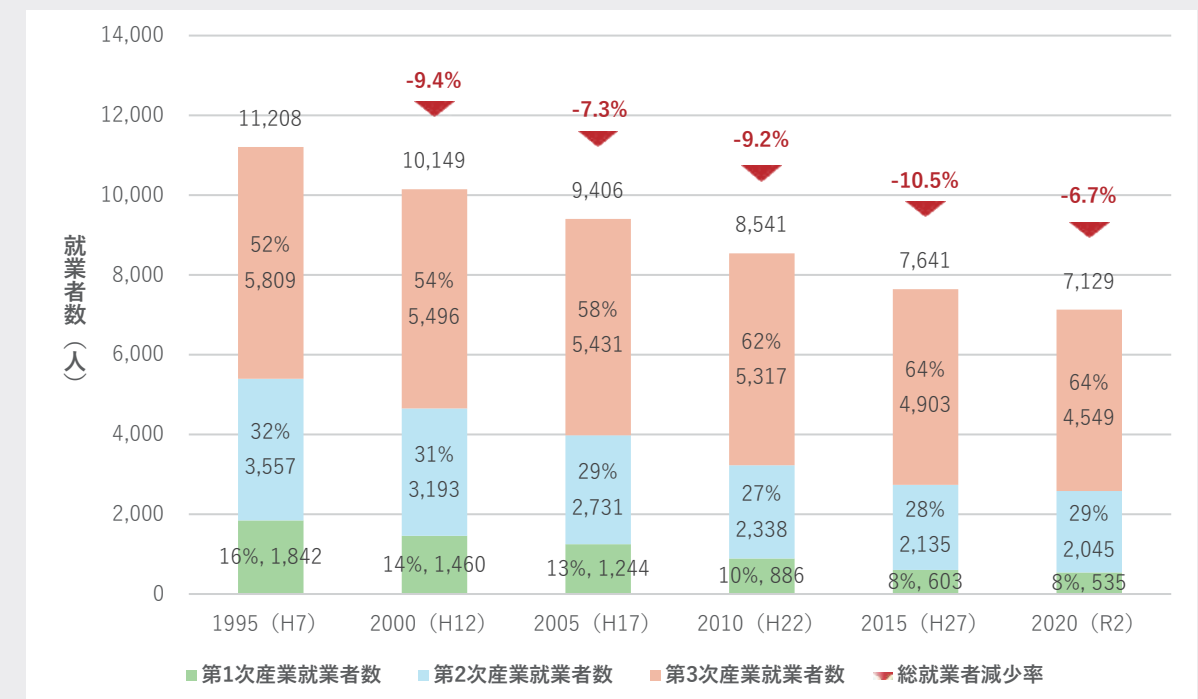
津久見市の産業別付加価値額およびその特化係数
(出典：総務省・経済産業省「経済センサス・活動調査(R3)」)

人口減少に伴う就業者数の減少

本市の就業者数は、2020（令和2）年では1995（平成7）年と比較して6割程度に減少しており、人口減少に伴う就業者数の減少が見られます。

第1次産業では、特に就業者数の減少が著しく、1995（平成7）年から2020（令和2）年の間に、1,842 人から 535 人まで減少し、率にして約 71%の減となっています。また、総就業者数に占める割合は 16%から8%へと約半分になり、第1次産業の急激な衰退が危ぶまれます。

第2次・第3次産業では、就業者数は確実に減っている一方で、構成比率については大きな変動はなく、全国的に見られる過度な第3次産業への偏重は抑えられていると言えます。



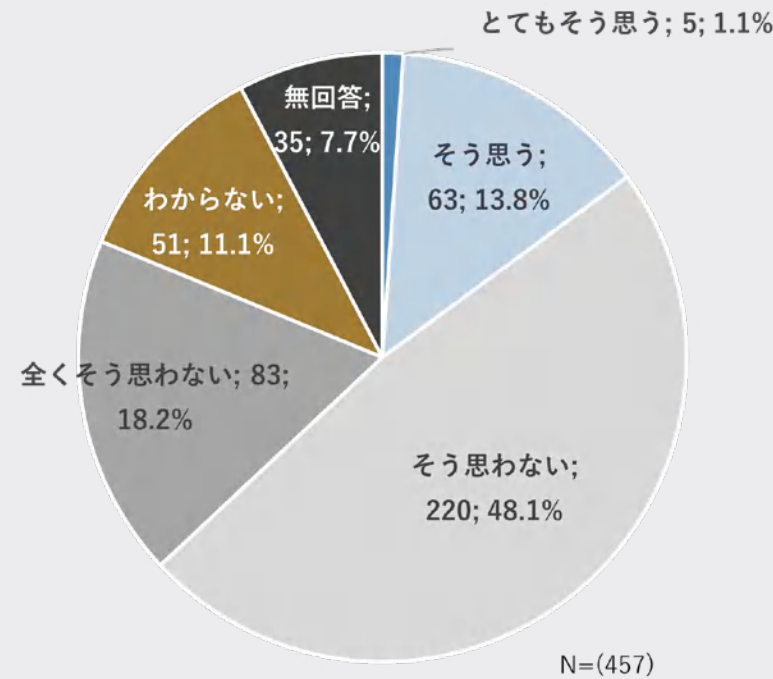
津久見市における産業別就業者数・構成比率の推移
(出典：総務省「国勢調査（H7～R2）」)

市民向けアンケート調査

Q. 将来の津久見市に求める姿は何ですか？（N=457）

1 位	住環境や働く場が充実し、若者が住みたくなるまち	61.7%
2 位	医療・福祉サービスや公共交通の充実等、安心して暮らせるまち	43.2%
3 位	農林水産業や商工業等、産業の振興が図られているまち	28.5%
4 位	結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえられるまち	26.1%
5 位	観光地としての魅力が高まり、多くの来訪者を惹きつけるまち	25.7%

Q. 津久見市は働く場所が充実していると思いますか？（N=457）



Q. 充実していると思う理由（N=68）

（「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方）

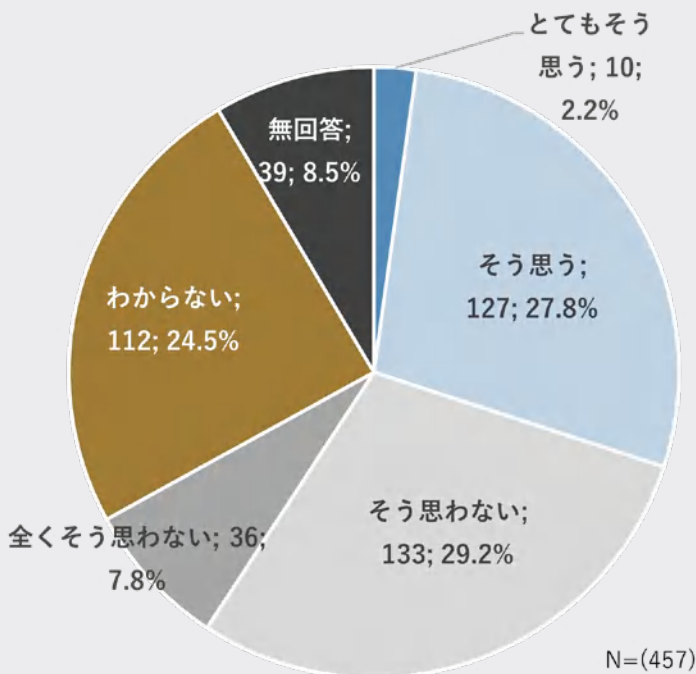
1 位	地元産業に関連する企業が多いから	73.0%
2 位	立地条件の良い職場が多いから	23.6%
3 位	賃金水準が高いから	22.9%
4 位	希望する仕事内容を満たす職場が多いから	22.9%
5 位	高齢者の雇用機会が充実した職場が多いから	13.5%

Q. 充実していないと思う理由（N=303）

（「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方）

1 位	希望する仕事内容を満たす職場が少ないから	71.4%
2 位	賃金水準が低いから	42.9%
3 位	若年層の雇用機会が充実した職場が少ないから	33.2%
4 位	テレワーク・リモートワーク等、多様な働き方を推奨する職場が少ないから	20.0%
5 位	福利厚生が充実した職場が少ないから	15.1%

Q. 津久見市は子育てがしやすいまちだと思いますか？（N=457）



Q. 子育てがしやすいと思う主な理由（自由回答、N=40）

（「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方）

- ・ 保育料・医療費の無償化
- ・ 地域住民による見守り
- ・ 自然環境の良さ
- ・ 小規模校による目の届く環境
- ・ 待機児童がないこと

Q. 子育てがしづらいと思う主な理由（自由回答、N=65）

（「そう思わない」「全くそう思わない」と回答した方）

- ・ 買い物環境の不足
- ・ 遊び場の少なさ
- ・ 交通や通学の不便さ
- ・ 産婦人科や小児科の不足
- ・ 働く場や収入の不安
- ・ 教育水準や将来への選択肢の乏しさ

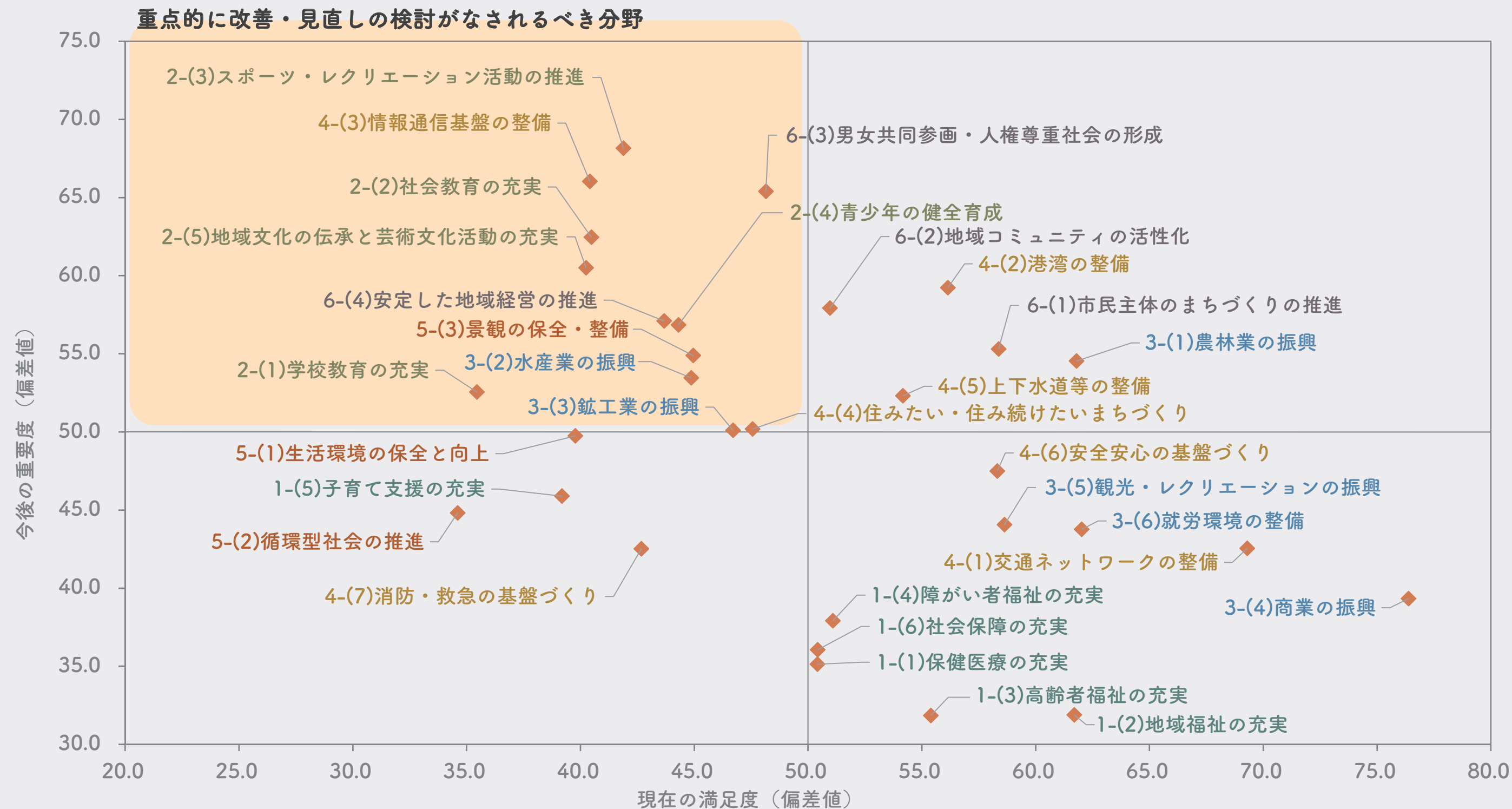
【市民向けアンケート調査 調査概要】

2025(令和 7)年 3 月 19 日～ 4 月 12 日 実施／郵送配布・郵送又は Web 回収
有効回収数 457 件（郵送 316 件・Web141 件）(回収率 31%)

市民向けアンケート調査

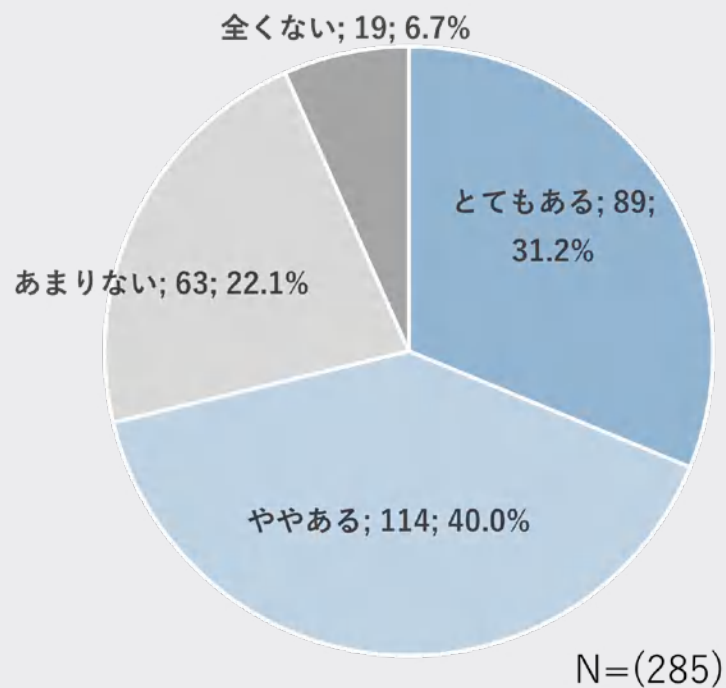
第5次津久見市総合計画における31の施策それぞれについて、市民の皆様の現在の満足度および今後の重要度を5段階でお聞きした結果が以下の散布図です。

散布図の左上に分布する施策は、市民の皆様の満足度は低いが、今後の重要度は高いと評価されており、重点的な改善・見直しの検討が求められます。

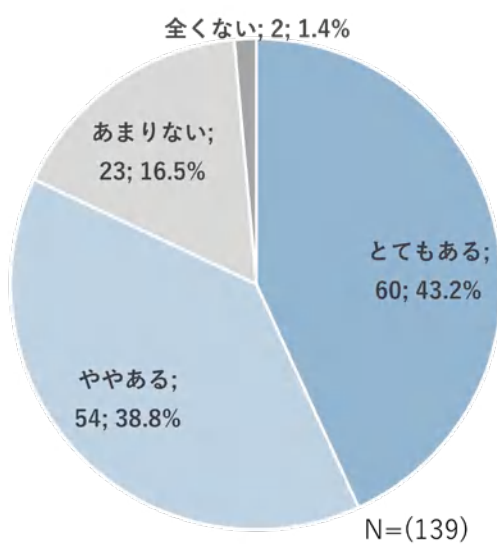


高校生向けアンケート調査

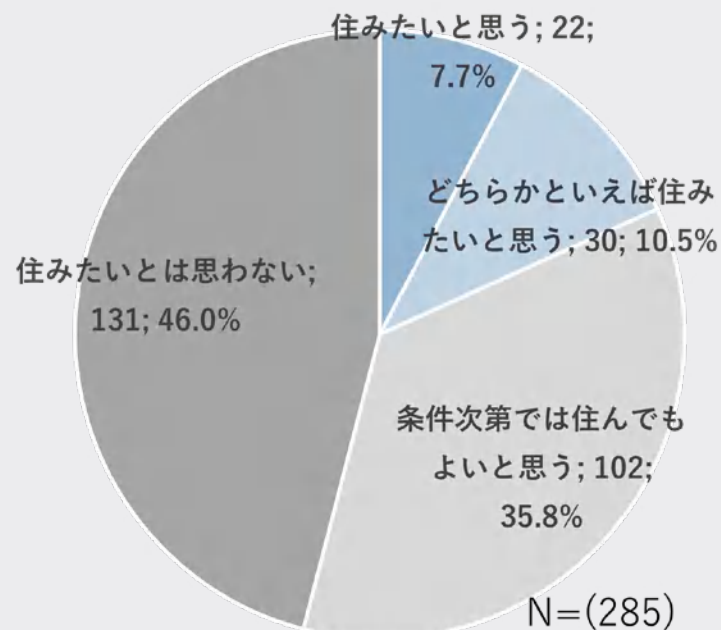
Q. 津久見市に親しみや愛着がありますか？ (N=285)



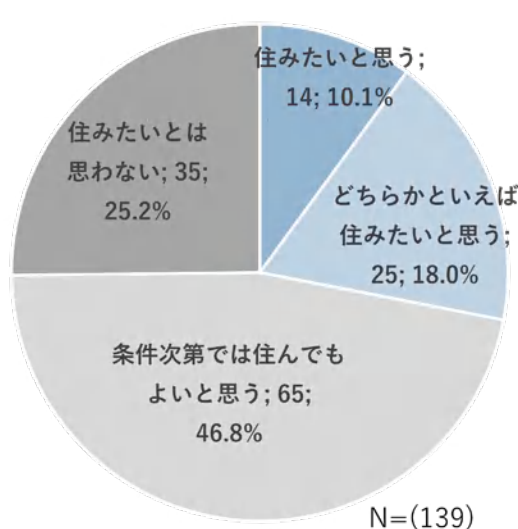
うち津久見市在住の高校生 (N=139)



Q. 将来、津久見市に住みたいですか？ (N=285)



うち津久見市在住の高校生 (N=139)



Q. どんなまちになれば将来津久見市に住みたい、または移り住んでも良いと考えますか？ (N=285)

1 位	就きたい職業や働ける場所がある	44.6%
2 位	市内での買物や娯楽が充実し、生活が便利になっている	37.9%
3 位	駅前などの中心部に活気がある	33.0%
4 位	安くて設備の整った、アパート・マンションがある	23.9%
5 位	子育てにやさしいまちになっている	21.8%

Q. 津久見市の良いところ (N=285)

1 位	海や山など自然が豊かで、景色が良い	61.1%
2 位	地域の人々がやさしく、親しみがある	32.3%
3 位	海の幸が豊富で食べ物がおいしい	24.2%
4 位	地域の祭りや伝統文化が身近に感じられる	20.4%
5 位	特になし	16.8%

Q. 津久見市の悪いところ (N=285)

1 位	交通の便が悪い	64.2%
2 位	生活する上での不便が多い	27.7%
3 位	特になし	16.8%
4 位	地震、津波、火災など防災対策、避難体制に不安がある	15.8%
5 位	レジャーや娯楽を楽しむ機会が少ない	13.7%

【高校生向けアンケート調査 調査概要】

2025(令和 7)年 4 月 15 日～ 5 月 9 日 実施

郵送および学校経由での配布・Web 回収

津久見高校に通学(市内外)または津久見市内に在住する高校 1 ～ 3 年生を対象

有効回収数 285 件(回収率 53%)

津久見市の Well-Being 指標

津久見市の Well-Being の現況を示す、Well-Being 指標の数値を見ていきます。
市民の幸福度は高い値を示したものの、その他の生活満足度や町内の幸福度などは全国平均を大きく下回る結果となりました。24 因子ごとに見ると、「医療・福祉」「買物・飲食」などの生活インフラに対する満足度の低さがうかがえます。

幸福度（10 段階評価）

6.88

全国平均：6.49（2024 年度版）

生活満足度（10 段階評価）

5.72

全国平均：6.48（2024 年度版）

町内の幸福度（10 段階評価）

5.65

全国平均：6.34（2024 年度版）

周りの楽しさ（5 段階評価）

3.06

全国平均：3.23（2024 年度版）

【おさらい】 Well-Being 指標

Well-Being 指標は、Well-Being アンケート調査から収集された主観指標と、各種オープンデータから収集された客観指標により、右のように構成されます。

幸福度

生活満足度

町内の幸福度

周りの楽しさ

市民への Well-Being
アンケート調査により収集

+

都市環境

自然環境

地域

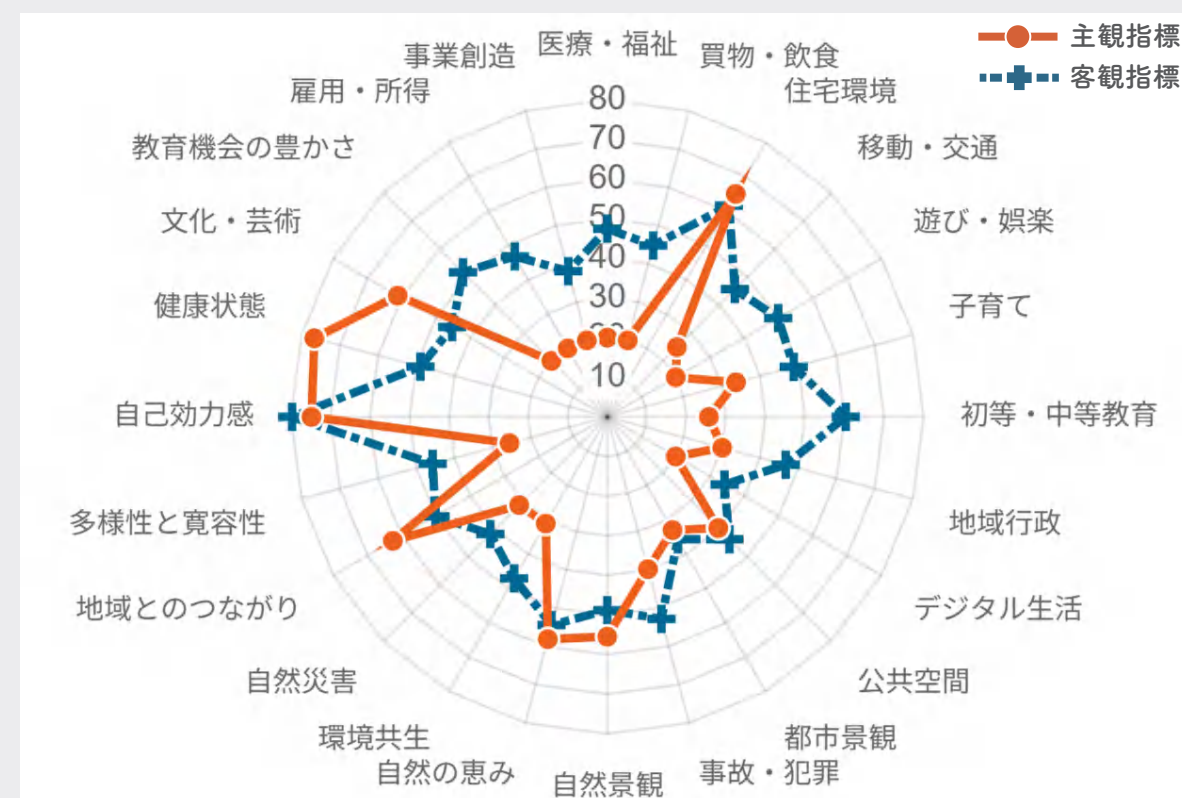
自分らしい生き方



主観指標：市民への Well-Being アンケート調査により収集
客観指標：公開されている各種オープンデータにより収集

24 因子ごとの Well-Being 指標 全国偏差値

※全国偏差値：全国平均に対する、値の相対的な高さ・低さを示します。偏差値 50 は全国平均並み、50 以上は全国平均以上、50 以下は全国平均以下となります。



【Well-Being アンケート調査 調査概要】

2025(令和 7)年 4 月 1 日～ 4 月 22 日 実施

広報紙や市公式 SNS などにて回答呼びかけ・Web 回収／有効回収数 141 件

市民・職員向けワークショップ

津久見市役所職員および津久見市民を対象に、「Well-Being ワークショップ」を実施し、Well-Being アンケートの結果を参考にしながら、10 年後の津久見市のあるべき将来像と、そのために必要な Well-Being の重要因子を考えていただきました。職員ワークショップでは 4 グループ、市民ワークショップでは 4 グループの計 8 グループが参加し、それぞれ結果を共有しました。

主に「地域とのつながり」を大事にした上で、すべての人の「安心」や「豊かさ」を育みながら、「若者が帰ってくる」まちを実現しよう、という意見が見られました。

津久見市の Well-Being 重要因子として多く選ばれたもの



10 年後の津久見市のあるべき

将来像に多く挙がったフレーズ

人と自然

みんなで

地域の力

つながり

子育て

安心

豊かな

若者が帰ってくる



津久見市の現状整理 - 関係団体の意見 -

関係団体ヒアリング

津久見市内の 5 団体に対し、ヒアリング調査を行い、各施策分野における課題認識や改善策・アイデア等のご意見を伺いました。

農林業

課題

- 高齢化や収益性の低さによる就農者不足
- 良好な農地の維持管理の難しさ
- 鳥獣被害
- 温暖化の影響による栽培技術の見直し

改善策・アイデア

- スマート農林業の導入
- 高付加価値化・ブランド化
- 販路拡大
- 企業参入・新規就農者への支援
- 包括的な農地整理
- 苗木の育成費用労賃制度の見直し
- 鳥獣被害対策

水産業

課題

- 高齢化および後継者不足
- 加工・流通のバリューチェーン強化
- 市内の購買力の低さ

改善策・アイデア

- 養殖業の推進とブルーカーボンプロジェクトの導入
- 高付加価値化
- 観光や食育との連携
- 商業に精通した人材の育成・誘致
- スマート漁業の導入
- 流通の仕組みの見直し

教育・子育て

課題

- 不登校の生徒のための教育機会の確保
- 雨の日でも子どもが楽しめる場の不足
- 教員数の減少による教員の負担の増大

改善策・アイデア

- 子どもたちが勉強するための施設の充実
- 新市庁舎周辺における集いの場の整備
- デジタル技術を活用した分散型の教育システム
- スポーツイベントの企画・開催

地域コミュニティ

課題

- 高齢社会に伴う自治会運営の困難
- 孤立者への支援
- 地域活動の衰退
- 地域とのつながりの希薄化

改善策・アイデア

- 自治会における勉強会・検討会の実施
- 自治会再編を見据えた綿密な対話
- 委員・役員等の仕組みの柔軟性
- 小中学校における地域とのつながりに関する教育の導入

その他産業振興

課題

- 鉱工業における小規模事業者の脆弱性と若年層の定着率低下
- 中心市街地の空きテナント増加と地域消費の低迷
- 観光資源の認知度不足および二次交通・コンテンツの不足

改善策・アイデア

- 新たな産業誘致および事業承継支援の強化
- 中心市街地でのチャレンジ支援
- 観光コンテンツの確立

雇用・就業機会

課題

- 若年層の県外流出
- 女性のキャリア継続の難しさ
- 多様な働き方への未対応

改善策・アイデア

- 地域内での多様な雇用機会の創出
- UIJ ターン促進のための支援
- ワークライフバランス推進およびシニア人材・外国人人材の活用補助

医療・福祉

課題

- 小児科や産婦人科を有する病院の不足

改善策・アイデア

- 子どもの健康や福祉面での突出したサービス充実

都市基盤

課題

- 災害時の高齢者避難の難しさ
- 生活基盤の不足による利便性の悪さ
- 街灯や標識の一部未整備による安全性への不安

改善策・アイデア

- 安全な避難体制の構築
- 生活基盤のハード・ソフト整備

津久見市が目指すべき方向性

津久見市の強みと弱み

強み

- 基幹産業がしっかりしている
- 農地の基盤整備や新規就農
- 魚種も豊富で魚価も安定しており、流通も見込まれる漁業
- 特産品の高付加価値化の可能性
- 良好な海の環境
- 津久見市への愛着・地域のつながり など

弱み

- 希望の仕事分野が少ないことによる働く場所の充実度の低さ
- 生活インフラの乏しさによる子育てのしにくさ
- 生活利便性の低さや仕事の選択肢の少なさから、将来津久見市に住みたい高校生が少ない
- 進学・就職に伴う 20 代前後や家庭を持つ 30 代など、若い世代の転出傾向が顕著
- 高齢化により、様々な場面での担い手不足 など

目指すべき方向性

これまでの各種調査からは、津久見市の課題が多く浮き彫りになる一方で、津久見市には豊富な地域資源という強みが確かに存在することも明らかになりました。これは今後 10 年の津久見市に寄与する、「地域の力」と言えます。

これからの 10 年間は、この「地域の力」をさらに増強させることで、津久見市の魅力を最大限に伸ばして弱みをカバーし、市民一人ひとりの Well-Being 向上を目指していきます。